



# 高品質・高付加価値印刷を目指して、 厚紙対応の5色LE UV印刷機を導入。 スピードマスターCD102-5 LE UV

## 地理的ハンディを乗り越えて

### 首都圏エリアの受注を拡大し大きく成長

昭和28年創業の株式会社総北海は、北海道旭川市に本社・工場を構え、出版印刷から一般商業印刷、オンデマンド印刷まで幅広い印刷業務を手がけています。顧客は旭川、札幌など地元の北海道だけでなく首都圏にも数多く抱え、札幌市の他、東京・墨田区にも営業拠点を構えています。1992年の東京進出以来、四半世紀にわたって地道な営業活動続け、ファッション、芸術、建築など出版業界で多くの顧客を獲得すると共に、売上も大きく伸ばしてきました。今では首都圏エリアからの受注比率が、全体の半分近くを占めています。

## 8色機2台のうち1台を

### 最新鋭の5色片面LE UV印刷機に更新

同社がスピードマスター CD102-5 LE UVを導入したのは、2015年末のこと。主力機種のひとつとして活躍してきたスピードマスター SM102-8-Pの更新機として導入しました。このSM102は1997年に導入したベテラン機で、2006年に導入した新世代機（SM102-8-P）と共に、10年以上にわたって、同社が誇る菊全クラスでの4/4色×2台生産体制の一翼を担ってきました。数年前には徹底したオーバーホールを行い、毎時1万枚以上の生産性を取り戻すなどメンテナンスも万全でした。ただ導入から20年近くが経ち、「そろそろ更新が必要」と代表取締役社長の田村 総司郎氏も覚悟していました。その理由のひとつが印刷品質へのこだわりでした。同社の事情について、田村社長は次のように話しています。



代表取締役 社長  
田村 総司郎 様



## 日本向けに機能をパッケージ化した スピードマスター CD102 X-package

- ・ハイデルベルグの最上位機種 XL シリーズの技術を継承。
- ・プリセットプラスフィーダ/デリバリ、オートプレート、自動洗浄装置など豊富な自動化装置を搭載し、すぐれた操作性と作業性を実現。
- ・毎時15,000枚の最高印刷速度でも、薄紙から厚紙まで安定した用紙搬送で、トップクラスの印刷品質を達成。
- ・分光光度計を内蔵した印刷品質監視装置「プリネクトイージーコントロール」を標準装備し、スピーディな色合わせをサポート。
- ・省エネタイプのLE UV印刷機は、デリバリ部の200Wランプ1灯で硬化が可能。
- ・お客様のニーズにあわせて豊富なバリエーションを用意

「当社ではファッション誌など品質要求度の高い仕事も多く、徹底した品質管理を心がけてきました。2006年に導入した8色機ではキズ・ヨゴレを見逃さないよう、カメラによる全品検査を行っています。ただ旧モデルには搭載できず、新台の必要性をひしひしと感じていました」それだけではありません。重い絵柄、軽い絵柄、ハイコントラストな絵柄、シビアな色再現が求められる絵柄など、難易度の極めて高い絵柄が見開きで続くなど、色合わせも一筋縄ではゆきません。お客様から現物を支給され「これと色を合わせて欲しい」と言われたこともあるそうです。こうした厳しい要望に応えるため、8色機を両面印刷ではなく片面4色印刷で使うケースも多くなり、稼働率と生産性の低下につながっていました。このような状況のなか、印刷現場では次期機種に関する検討を重ね、薄紙から厚紙まで柔軟に対応できる片面印刷機が候補に挙がりました。さらに5胴目とUV印刷による高品質・高付加価値印刷が可能なら、今の仕事だけでなく将来性もあると田村社長が判断し、最後は国産メーカーと比較検討した結果、スピードマスターCD102-5 LE UVの導入が決まりました。

### 従来機にはない CD102 の最新機能と性能を高く評価

2015年末に同社に導入されたスピードマスター CD102は、翌2016年1月には本格稼働が始まりました。設置からわずか1~2週間ほどで実運用が始まったことについて印刷課 課長の古田貴則氏は、次のように話しています。

「UV印刷は初めての経験だったので、インキ選びからスタートするなど手間がかかりました。ただ基本的な操作については、長年使い慣れてきたハイデルベルグ機だったので、戸惑うことはありませんでした。むしろ自動化が進んでいて、カーブ設定などもとても簡単に行えました」UVインキの選定や油性・UV間での色合わせ、CtPカーブの設定など、実運用の前には複雑な調整作業が目白押しです。こうした面倒な作業をすべてメーカースタッフの手を借りることなく、短期間で仕上げってしまう同社の技術レベルの高さには頭が下がります。CD102の機長を任されている印刷課 主任の長谷地雅善氏も、その性能を絶賛しています。

「従来機とは全く別物という印象です。CD102はとても使いやすく、欠点が見当たりません。フィーダもデリバリもすぐ安定しています。仕事替えて用紙の種類が変わっても、エア量は自動的に設定されるので、手動による調整の手間がほとんどありません。印刷スピードも毎時15,000枚の最速運転が基本です」

### ハイエンドの仕事で高い生産性と印刷品質を達成

スピードマスター CD102が、その性能を遺憾なく発揮したのは導入から1ヵ月後のこと。最高の品質レベルが求められるファッション写真誌(B4変形・約400ページ)の仕事でした。その成果を田村社長は次のように喜んでます。

「これまでは8色機2台でも間にあわず、外注に頼ることもあったのですが、UV印刷に変えた今回は新しいCD102だけですべてを処理できました。印刷速度、安定性、速乾性など様々な要素が重なって多くの無駄がなくなり、結果として生産時間が大幅に短縮できました。また、パウダーによる印刷トラブルがなくなり、検品の手間と時間も削減できました」



印刷課 課長  
古田 貴則 様



印刷課 主任  
長谷地 雅善 様

これまでカメラで発見できないパウダーのボタ落ちなどは目視に頼るしかなく、検品作業の負担となっていました。UV印刷ではこうしたトラブルがなく、検査日数も3日から2.5日に短縮できたそうです。さらに外注費の削減、予備紙・損紙の削減など、経費削減にも貢献しています。印刷品質についても「メリハリがある」「色がきれい」と、お客様から絶賛されたそうです。またUV印刷はドライダウンがなく、印刷直後の色がそのまま製品の色となるため、印刷立ち会いでも「確認がスムーズに行える」と喜ばれたそうです。ハイエンドの仕事で確かな手応えを感じた田村社長は新分野の開拓にも意欲的です。CD102の厚紙への対応力を活かして、POP・パッケージ分野への参入も果たしてゆきたいと考えています。またUV印刷機能による特殊原反にも挑戦をはじめています。スピードマスター CD102という新しい印刷機が、同社のビジネスに新しい翼を与えたことは間違いないようです。

### 株式会社総北海

〒078-8272 旭川市工業団地2条1丁目1-23  
TEL.0166-36-5556  
FAX.0166-36-5657  
<http://www.sohokai.co.jp/>